

## ボッフム・ルール大学（ドイツ）との学術交流協定について

文学部と教養学部が幹事部局となり、1969年にボッフム・ルール大学との間で無期限の全学協定を締結したが、1980年頃からほとんど活用されないまま現在に至っている。

この度工学系研究科が中心となってボッフム・ルール大学との協定を結び直すことになったため、幹事部局を交代することになった。また、本研究科は現在同大学との間で交流がなく、今後も特に予定がないため、関係部局としても参画しないこととする。

## 【説明】

教養学部がボッフム・ルール大学との交流に積極的に関わっていたのは1980年代頃までで、先方で日本語を教えながら在外研究と研究交流をするために、ドイツ語部会や国文学・漢文部会の先生方が1年渡航していたが、時間的な要求がきつくなり本来の研究が十分にできないため研究者を派遣しなくなった。

2006年1月に本研究科広域科学専攻関連基礎科学系の菅原正教授（当時）が中心となり、ボッフム・ルール大学理学部との間で、構成的細胞科学の研究連携を遂行するための契約を5年の期限で結んだが、菅原先生はすでに退職され、この協定も更新せず期限切れになっている。

この度、工学系研究科が中心となってボッフム・ルール大学との協定を結び直すことになり、本研究科も関係部局として参画するかどうか照会があったためドイツ語部会の教員を中心に検討したが、現在も近い将来も特に研究交流の予定がないことから、本協定に加わることは見送るという結論になった。